



# 土佐原桜の会 里山の保全を 目指して

会長 まつもと かつみ 松本 克己さん

☎ 観光経済課 ☎ (83) 1228

住民の高齢化や、担い手の不足などにより、里山の保全に対する活動が低下して昔ながらのきれいな景観は失われつつあります。

そんな中、寄の土佐原地域で住む人も訪れる人も癒される里地里山の景観づくりに奮闘する「土佐原桜の会」にお話を伺いました。

**みんなに1度は見てほしい  
みやま淡彩桜**  
たんざいさくら

「土佐原桜の会」は、土佐原地区の個人宅に植えられている、樹齢250年の桜の木（みやま淡彩桜）をたくさんの方に見てもらうため、地元住民主体で平成17年に設立しました。翌年（平成18年）の第1回しだれ桜まつりの開催に向け環境整備に汗を流し、現在も変わらず活動を続けています。

また、平成30年に神奈川県に農林地などの保全を目的とする里地里山活動協定の認定を受け、現在は里地里山保全等促進事業補助金

（神奈川県）を活用して活動しています。

## 憧れの 里地里山を目指して

日々の活動は、桜の植樹や草刈りを行っています。植樹は、現在も同地区内で進めています。苗が育つ前に鳥獣被害に遭うなど、

なかなかうまくいきません。草刈りもともと、まつりの開催に向けてのみならず、荒廢地を無くすために整備した経緯もあります。毎年2回、会員や協力者を含め20人程度で草刈りを実施します。作業する場所は傾斜地も多く、とても大変ですが、まつりに来てくれる人のことを思うと、頑張れます。

今後も、耕作放棄地を増やさないことを一番に活動し、**里山の保全**を目指していきます。また、3年前に植樹した八重桜やえざくらが育ってきたら花の出荷なども行っていきたいと考えています。

